

令和 5 年度入学者選抜

後期日程小論文試験

問題冊子

(岐阜大学医学部看護学科)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子をひらかないこと。
2. 問題冊子の本文は 2 ページです。この他、解答用紙 3 枚と下書用紙 3 枚が配布されています。試験開始後これらを確認し、落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所があれば、ただちに試験監督者に申し出ること。
3. 各解答用紙のそれぞれ指定された枠内に受験番号を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の指定された箇所に記入すること。
5. 解答用紙を持ち帰ってはいけません。
6. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ること。
7. 試験時間は、10 時 30 分から 11 時 30 分までの 60 分間です。

問題1 次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

(配点 200 点)

日本が急激な少子高齢化による労働力不足に見舞われてから久しい。そこで潜在的な労働力である女性を活用するため、2015年に女性活躍推進法（「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」）がつくられた。また、2017年には働き方改革を推進するための法律が公布され、働きすぎを防ぐためのワーク・ライフ・バランスと個々の事情に応じた「多様で柔軟な働き方」が、男女双方に対して奨励されるようになった。この背景には、世界的な広がりをみせている新自由主義の影響がある。つまり、個人は自由に生き方や働き方を選ぶことができ、そこで成功するも失敗するも個人の責任、という考え方である。

しかし、女性が仕事か家庭かの二者択一で悩むことなく、(1) 仕事も家庭も選べる時代になったというのは錯覚であり、あくまでも女性が家庭を守ることが前提である。日本政府が打ち出した女性活躍推進法や働き方改革は、女性の権利や自立を保証するものではなく、人口減少・労働力不足を解決するために女性を「活用」しようというものである。多様な働き方、ワーク・ライフ・バランスの名のもとで、女性には、育児や介護という福祉の肩代わりと労働力の調整弁の役割を果たすような働き方として、パートタイマーや派遣労働など非正規雇用の比重が高まっている。働き方改革と女性活躍がセットになったことで、日本女性はこれまで以上に大きな負担を強いられているのではないだろうか。

ちなみに、男性の立場からワーク・ライフ・バランスを考えると、仕事だけではなく家庭のことにも時間やエネルギーを注ぐように促すものであるが、男性が主たる家計維持の責任を負っていることには変わりない。残業手当や税制面での配偶者控除をあてにした家計のやりくりが難しくなることで、副業をもつことさえ奨励されているのが現実である。やはり女性が家庭を守るという内助の功が必要なのである。女性の側も、働きに出たいと思っている場合でも、その代わりに夫が働くくななくてもよいとは考えないであろう。男性のような条件や給与で働けないという現実の前では、現状に妥協せざるをえないのである。

2020年に勃発した新型コロナウイルス感染症の流行により「ステイ・ホーム」が奨励され、在宅勤務（テレワーク、リモートワーク）が大きな広がりを見せつつある。男性も家庭に滞在する時間が増え、ワーク・ライフ・バランスの実現に一歩近づくとの期待も寄せられた。しかし現実は、女性の家事・育児の負担が増大する傾向にあるといわれている。男性が女性と同等に家事・育児に取り組まない（できない）ばかりか、コミュニケーションがうまくとれずにストレスが溜まり、最悪の場合にはDVや離婚に発展したケースも少なくない。ワーク・ライフ・バランスというのは、女性の職場進出と男性の家事・育児参加がセットにならなければ、実効性のないスローガンとなってしまう。

([新版]ジェンダーの心理学 「男女」の思い込みを科学する 青野篤子, 土肥伊都子, 森永康子 ミネルヴァ書房 2022年)

問1 本文中に述べられているアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）には、どのようなものがありますか。文中の内容から50字以内で答えなさい。

問2 下線部（1）はどのようなことか、著者の考えを踏まえ100字以内で述べなさい。

問3 ジェンダー社会を変えるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。「配偶者の協力」、「国や自治体の政策」、「企業の制度設計」、「世論の形成」の4つの要素が入るようにあなたの考えを600字以内で述べなさい。